

授業評価アンケート結果(2019 秋)

担当者：杉本憲彦

科目名：物理学 II(実験を含む) 「気象を物理で語る」

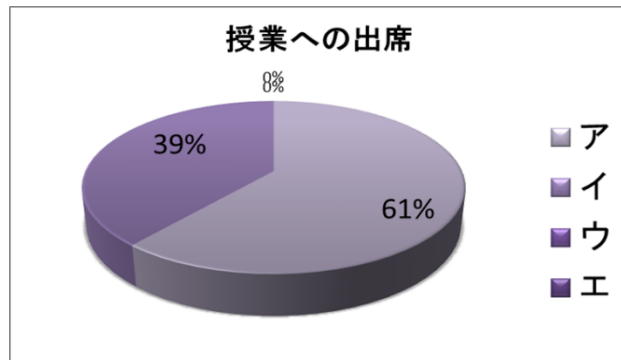
実施時期：秋学期最終講義日

科目設置：日吉 履修者数：126名

回収数：104名

1. 授業への出席

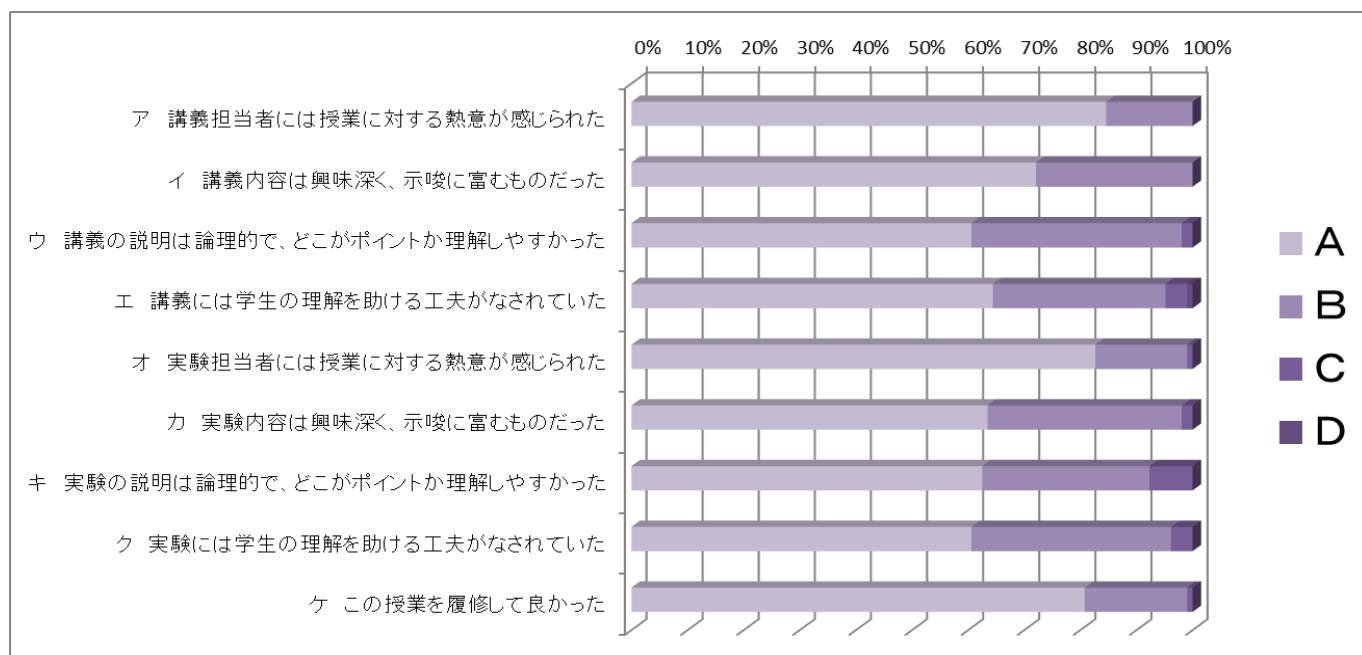
ア 全部出席した	63 人
イ ほとんど出席した(80%程度)	40 人
ウ あまり出席しなかった(50%程度)	0 人
エ ほとんど出席しなかった	0 人



2. 授業について

A=そう思う B=どちらかといえばそう思う
C=どちらかといえばそう思わない D=そう思わない

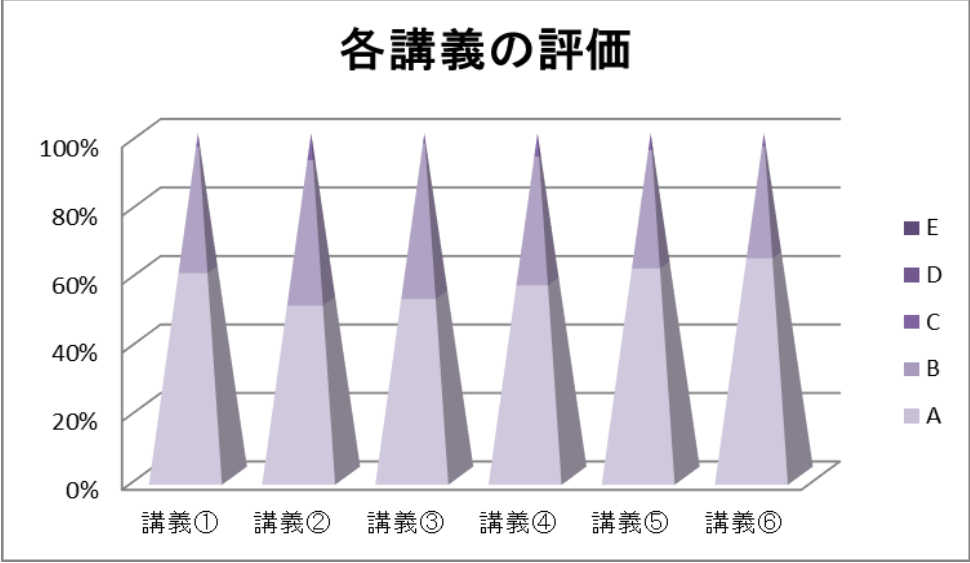
	A	B	C	D
ア 講義担当者には授業に対する熱意が感じられた	88	16	0	0
イ 講義内容は興味深く、示唆に富むものだった	75	29	0	0
ウ 講義の説明は論理的で、どこがポイントか理解しやすかった	63	39	2	0
エ 講義には学生の理解を助ける工夫がなされていた	67	32	4	1
オ 実験担当者には授業に対する熱意が感じられた	86	17	1	0
カ 実験内容は興味深く、示唆に富むものだった	66	36	2	0
キ 実験の説明は論理的で、どこがポイントか理解しやすかった	65	31	8	0
ク 実験には学生の理解を助ける工夫がなされていた	63	37	4	0
ケ この授業を履修して良かった	84	19	1	0



3. 各回の講義内容について

A=とても良かった B=どちらかといえば良かった C=良くも悪くもない
 D=どちらかといえば悪かった E=とても悪かった

	A	B	C	D	E
①大気の成り立ち - 地球の気温はどうやって決まる？ -	62	37	4	0	0
②地球規模の流れ - 低気圧が西風に流されるしくみ -	53	43	8	0	0
③雲と降水 - 雲が浮かび、雨が降る理由 -	55	46	3	0	0
④気象よもやま話 - 日々の天気の舞台裏 -	59	38	7	0	0
⑤明日の天気 - 天気予報の限界とカオス -	64	35	5	0	0
⑥気候の変動 - 地球温暖化と現代物理学 -	67	33	4	0	0



4. 自由記述(以下は主観による抜粋です)

- 地球が今、抱えている環境問題について、現状と原因を学ぶことができ、良かったと思う。
- 気象の観点から学ぶ物理学は、計算が苦手な自分にも地球や身近な現象からイメージしやすかった。
- 小中と理科が嫌いだったが、この授業を通して物理が楽しくなった。黒板でも丁寧に説明してもらえた。
- 雲と雨の違いなど、よくよく考えるとわかっていなかったことが詳しく知れてよかった。
- 高校の地学を懐かしく思いながら、より深く掘り下げたり、全く新しい内容も数多く、興味深かった。
- マスコミの情報をしっかり考えるようにしたい。実験の考察を自分で考えられるようになった。
- 天気ニュースを思い出しながら聞いて興味深い。実験の計算から実際の値が出るのが面白い。
- 秋学期の方が個人的に興味を持つテーマが多く、講義を聞くのが楽しみだった。
- △カオスの話とは少し難解だったが、ポイントは理解できた。橋が落ちる話も面白かった。
- △身近な気象の仕組みが聞けて楽しかったですが、少し難しかった。映像の説明が多くて良かった。
- △全体的にわかりやすくて面白い授業だったが、実験の考察で基礎知識が必要なものがあつた。
- △個人的に講義内容は春学期の方が面白かった。全体としてたくさんの知識が身についた。

5. 講評

講義、実験とも概ね好評であった。講義と実験の評価の差も例年より小さくなっている。後期の実験は現代物理を扱う内容が多く、計算も大変であるが、概してうまくできていたようだ。講義を通して、気象や温暖化に興味をもつ学生が複数いて良かったと思う。たくさんのトピックを総花的に扱っても、深い理解を得られるようにしたい。自由記述を参考に、さらに良い講義・実験を目指そうと思う。この授業が、身近な気象に興味を持つきっかけになり、地球の未来を少しでも考える機会になってくれれば幸いである。